W600×H900

虎列刺（コレラ）　急激に死へと進む

コレラは、コレラ菌による感染症で、菌が人体内で排出する毒素によって激しい下痢と嘔吐が引き起こされる感染症です。もともとコレラはインドのある地域に限定した病気で、18世紀にヨーロッパ人を通じて世界中に広まりました。

症状の進行が早く、2～3日のうちに死んでしまうほどだったため、「三日ころり」、感染の速さを千里を走る虎に、また恐ろしさを狼になぞらえて「虎狼痢（ころり）」「虎狼狸」と書くこともありました。

病気とどのように闘ったか

ヨーロッパでは14世紀から検疫を行い、流行病のある土地から来た船舶や旅客は、用心のため一定期間隔離されました。日本では刷り物などで、親子でも病気にかかった人を家には入れないようにと呼びかけました。幕末はまだ病原菌が発見されていなかったため、安政5年（1858）の流行の折には、長崎のオランダ商館の医官・ポンペは、解熱剤のキニーネと阿片（あへん）を用いる治療法を勧めました。緒方洪庵は、西洋医学の書物からコレラに関する項目を急いで翻訳し、『虎狼痢治準（ころりちじゅん）』として緊急出版して、当時としては最新の治療法を紹介しました。漢方医も、排泄を促す薬と下剤を組み合わせた薬、腹痛・下痢の薬に用いる鉱物・雄黄（ゆうおう）を主とした丸薬を使いました。

流行時の惨状

安政5年（1858）の大流行の折には、葬列が途切れることなく、火葬場につぎつぎと棺桶が運び込まれたとの記録が残されています。

混雑する火葬場の様子

コレラの病魔はこんな姿？

虎、狼、狸を組み合わせたコレラの病魔「虎狼狸（ころり）」

部屋の空気を入れ替え、井戸水は
飲まないようによびかけしているコレラ絵。